

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部・学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホシノ キンジョウガクエン 学校法人 金城学園								
フリガナ大学の名称	キンジョウガク 金城大学 (Kinjo University)								
大学本部の位置	石川県白山市笠間町1200番地								
大学の目的	本学は、「明るく素直で誠実な人間、更には自由と個性を愛し、創造性に富む、豊かな人間形成」という教育の基本理念に基づき、深い専門性と豊かな人間性を持って、社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的	健康の維持・増進等も含む高度化、多様化する作業療法の業務に対応可能であり、医療・福祉関係職員との適切な連携がとれ、リハビリテーション現場において指導的役割を果たせるような人材育成を目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	医療健康学部 [faculty of health sciences]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	石川県白山市笠間町1200番地	
	作業療法学科 [department of occupational therapy]	4	35	—	140	学士(作業療法学)	平成25年4月 第1年次		
	計		35	—	140				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	社会福祉学部社会福祉学科社会福祉専攻 [定員減] (△ 20) 医療健康学部理学療法学科 [定員減] (△ 15)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
	医療健康学部作業療法学科	講義	演習	実験・実習	計				
		84科目	26科目	19科目	129科目	132単位			
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等
				教授	准教授	講師	助教	計	
	新設	医療健康学部作業療法学科	4 (3)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	9 (8)	0 (0)	17 (7)
		計	4 (3)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	9 (8)	0 (0)	17 (7)
	既設	医療健康学部理学療法学科	6 (4)	4 (6)	4 (4)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	18 (18)
		社会福祉学部社会福祉学科	18 (18)	8 (8)	2 (2)	5 (5)	33 (33)	1 (1)	58 (58)
計		24 (24)	12 (12)	6 (6)	7 (7)	49 (49)	1 (1)	65 (65)	
合計		28 (28)	14 (14)	8 (8)	9 (9)	58 (58)	1 (1)	65 (65)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		27 (27)	1 (1)	28 (28)				
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	0 (0)	1 (1)				
	そ の 他 の 職 員		2 (2)	0 (0)	2 (2)				
計		30 (30)	1 (1)	31 (31)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		金城大学短期 大学部と共用		
	校 舎 敷 地	0 m ²	84,538.00 m ²	0 m ²	84,538.00 m ²				
	運 動 場 用 地	0 m ²	18,511.00 m ²	0 m ²	18,511.00 m ²				
	小 計	0 m ²	103,049.00 m ²	0 m ²	103,049.00 m ²				
	そ の 他	0 m ²	9,197.81 m ²	1,978.00 m ²	11,175.81 m ²				
合 計	0 m ²	112,246.81 m ²	1,978.00 m ²	114,224.81 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		金城大学短期 大学部と共用		
		14,017.13 m ² (14,017.13 m ²)	6,184.40 m ² (6,184.40 m ²)	9,294.89 m ² (9,294.89 m ²)	29,496.42 m ² (29,496.42 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体		
	31 室	13 室	12 室	1 室 (補助職員0人)	0 室 (補助職員0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		届出学科全体			
		医療健康学部 作業療法学科		9 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 図書20,000冊 機器・備品3,000点	
	医療健康学部 作業療法学科	4,864 [241] (4,664 [201])	62 [17] (62 [17])	5 [5] (5 [5])	260 (260)	2,400 (2,100)	32 (32)		
	計	4,864 [241] (4,664 [201])	62 [17] (62 [17])	5 [5] (5 [5])	260 (260)	2,400 (2,100)	32 (32)		
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		673.93 m ²		212 席	78,000 冊				
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		2,722.39 m ²		テニスコート7面		多目的グラウンド1面			
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費に電子 ジャーナルデー タベースの整備 費（運用コスト 等を含む）を含 む。
	教員1人当り研究費等		500千円	500千円	500千円	500千円	－千円	－千円	
	共同研究費等		5,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	－千円	－千円	
	図書購入費	3,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円	－千円	
	設備購入費	30,000千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円	－千円	－千円	
学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,770 千円	1,500 千円	1,500 千円	1,500 千円	－千円	－千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、補助金収入、資産運用収入等で充當						
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	金城大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	医療健康学部理学療法学科	年	人	年次人	人	学士(理学療法)	1.07	平成19年度	石川県白山市笠間 町1200番地
	社会福祉学部社会福祉学科 社会福祉専攻	4	160	5	650	学士(社会福祉)	0.75	平成12年度	
社会福祉学部社会福祉学科 こども専攻	4	50	5	210	学士(社会福祉)	1.13	平成19年度		

大 学 の 名 称		金城大学短期大学部							所 在 地
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度		
既 設 大 学 等 の 状 況	幼児教育学科	2	150	—	300	短期大学士(幼児教育)	1.06	昭和51年度	石川県白山市笠間 町1200番地
	美術学科	2	65	—	130	短期大学士(美術)	1.16	昭和51年度	
	ビジネス実務学科	2	135	—	270	短期大学士(ビジネス実務)	0.93	昭和59年度	
	幼児教育学科専攻科 福祉専攻	1	40	—	40	—	0.67	平成10年度	
	留学生別科	1	20	—	20	—	0.30	平成16年度	
附属施設の概要	該当なし								

教 育 課 程 等 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	スポーツ	1後	1												兼1
	スポーツ理論	2前	2												兼1
	レクリエーション活動	1前		1											兼1
	レクリエーション活動	1後		1											兼1
	英語	1前	1												兼4
	英語	1前	1												兼4
	英語	1後	1												兼4
	英語	1後	1												兼4
	言葉と文化(英語)	2前		1											兼2
	言葉と文化(英語)	2後		1											兼2
	言葉と文化(中国語)	2前		1											兼1
	言葉と文化(中国語)	2後		1											兼1
	医学英語	3前		1											兼1
	情報処理演習	1前	1												兼1
	情報処理演習	1後		1											兼1
	基礎演習	1前	1							1	2		1		
	基礎演習	1後	1							1	2		1		
小計(17科目)	-	-	10	8	0				0	1	2	1	0	兼11	-
主題科目	ボランティア入門	1前	2												兼1
	ボランティア活動	1通		1								2	1		兼1
	ボランティア活動	2通		1								2	1		兼1
	統計学	3後		1											兼1
	自然科学(生物系)	1前		2											兼1
	自然科学(物理系)	1前		2											兼1
	自然科学(数学系)	1後		2											兼1
	自然科学(化学系)	1後		2											兼1
	自然科学概論	1前		2											兼1
	環境論	2後		2											兼1
	自然地理	3前		2											兼1
	社会学	2後		2											兼1
	ソーシャルワーク論	3前		2											兼1
	ソーシャルワーク論	4後		2											兼1
	介護福祉論	3前		2											兼1
	介護福祉論	4後		2											兼1
	高齢者福祉論	1前		2											兼1
	障害者福祉論	1後		2											兼1
	法学(憲法)	2前		2											兼1
	法学	2後		2											兼1
	医療関係法	3後		2											兼1
	美術	1後		2											兼1
	日本文学	2前		2											兼1
日本文学	2後		2											兼1	
日本史	1後		2											兼1	
日本史	1後		2											兼1	
東洋史	3後		2											兼1	
小計(27科目)	-	-	2	49	0				0	0	2	1	0	兼15	-

教 育 課 程 等 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基本科目	解剖学	1前	2												兼1	
	解剖学	1通	1												兼1	
	解剖学	1後	1												兼1	
	解剖学	1後～2通		1											兼1	
	解剖学実習	1通	1												兼2	
	生理学	1前	1						1							
	生理学	1後	1						1							
	生理学実習	1通	1						1							
	運動学	2前	1							1	1					
	運動学	2後	1							1	1					
	運動学実習	2後	1							1	1					
	人間発達学	2前	1													兼1
	病理学	2後	1													兼1
	臨床心理学	2前	1													兼1
	臨床心理学	2後	1													兼1
	心理学	1通		4												兼1
	カウンセリング演習	3後		1												兼1
	高齢者の心理	4後		2												兼1
	障害者の心理	4後		2												兼1
	精神医学	2前	2							1						兼1
	医学概論	1後	1													兼1
	健康科学	1前	1													兼1
	生命と医療の倫理	1後	1							1						兼1
	内科学	2前	1													兼1
	内科学	2後	1													兼1
	整形外科学	2前	1													兼1
	整形外科学	2後	1													兼1
	神経内科学	2前	1							1						兼1
	神経内科学	2後	1							1						兼1
	小児科学	2前	1													兼1
	老年学	2前	1							1						兼1
	安全管理	1後	1													兼1
	感染防御	1後	1													兼1
	公衆衛生学	1前		2												兼1
	リハビリテーション医学	1後	1													兼1
	リハビリテーション概論	1前	1							2						兼2
	社会福祉概論	1前		2												兼1
	社会福祉概論	1後		2												兼1
	ケアマネージメント	4後		2												兼1
小計(39科目)		-	32	18	0				4	1	1	0	0	兼17	-	

心理学系
選択科目
から2単
位以上

教 育 課 程 等 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門展開科目	作業療法学概論	1前	2						2							
	基礎作業療法学	2前	1						1	1						
	作業療法教育管理	3前	2						2							
	作業療法研究法	3前	1						2							
	病態運動学	3前		2						1	1					
	作業療法評価概論	1後	1						2							
	検査・測定論	2前	1							1	2		1			
	検査・測定論	2後	1							1	2		1			
	検査・測定実習	2前	1							1	2		1			
	検査・測定実習	2後	1							1	2		1			
	作業療法治療学 (身体)	2前	2							1	2					
	作業療法治療学 (中枢1)	2前	2							1	1	1				
	作業療法治療学 (中枢2)	2後	2							1	1	1				
	作業療法治療学 (精神障害)	2後	2							1						
	作業療法治療学 (内部障害)	3前	1							1						
	作業療法治療学 (老年期)	3前	1									1				
	作業療法治療学 (高次脳機能)	3前	1							1	1	1				
	作業療法治療学 (発達障害)	3前	1							1						
	作業療法治療学 (職業前)	3前	1									1				
	作業療法治療学実習 (身体)	2前	1							1	2					
	作業療法治療学実習 (中枢1)	2前	1							1	1	1				
	作業療法治療学実習 (中枢2)	2後	1							1	1	1				
	作業療法治療学実習 (精神障害)	2後	1							1	1					
	義肢装具学	3前	2								1					
	義肢装具実習	3後	1								1					
	日常生活活動学	2前	2							1	1					
	日常生活活動実習	2後	1							1	1					
	スポーツリハビリテーション	3後		1												兼1
	作業学 (木工・陶芸等)	3前		1								1	1			
	作業学 (革細工・籐細工等)	3前		1								1	1			
	地域リハビリテーション	3前	2							1						
	生活環境学	3前	1								1					
	リハビリテーション関連機器	3後	1								1					
	地域福祉論	3前		2												兼1
	臨床評価実習	3通年	4							2	2	2	1			
	臨床実習	4前	8							2	2	2	1			
	臨床実習	4前	8							2	2	2	1			
	見学実習	1~2通	1							2	2	2	1			
	基礎実習	2~3通	4							2	2	2	1			
	客観的臨床能力評価	2~4通	1							2	2	2	1			
	基礎ゼミ	3前	1							3	2	2				
	基礎ゼミ	3前		1						3	2	2				
	卒業研究ゼミ	3後	1							3	2	2				
	卒業研究ゼミ	4後	1							3	2	2				
	卒業論文	3後~4通	3							3	2	2				
	総合学習	4後	1							3	2	2	1			
小計 (46科目)		-	71	8	0			-	3	2	2	1	0	兼2	-	
合計 (129科目)		-	115	83	0			-	4	2	2	1	0	兼41	-	
学位又は称号	学士 (作業療法学)	学位又は学科の分野	保健衛生学関係													
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
必修科目 115 単位、選択科目 17 単位以上 (備考記載の選択必修要件含む) かつ下記要件を満たして修得すること。 基礎・主観科目 26 単位以上、専門基本科目 34 単位以上、専門展開科目 71 単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限: 48 単位 (年間))								1 学年の学期区分				2 学期				
								1 学期の授業期間				15 週				
								1 時限の授業時間				90 分				

授 業 科 目 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基 礎 科 目	スポーツ	現在の子どもたちは、自然の中で行う遊ぶ機会、しかも集団遊びをする機会が失われてきた。その結果、若者たちの体力低下が指摘され、仲間づくりが不得意な学生が増えている。次の世代を担う学生たちが心身共に健全であることを願い、生涯親しむことの出来るスポーツの生活化を実践していく。実施種目は、パドルテニス、グラウンドゴルフ、ユニバーサルホッケー、ソフトバレーボール等である。	
	スポーツ理論	幼児期から高齢者に至るまでの身体機能の変化と運動の関係を中心にして講義を展開する。具体的には、トータルコンディショニング(運動、栄養、睡眠の関連)及び生活習慣病と運動の関係を理解させる。幼児期～高齢者までの運動時の安全(熱中症・脱水)についても理解を深める。	
	レクリエーション活動	レクリエーションの社会的意義を理解させ、レクリエーション活動の援助者として、関係各現場におけるレクリエーション活動に関する計画・諸準備・援助法・評価法等について学ばせる。そして、レクリエーション活動計画の作成能力を習得し、レクリエーション活動の実践的援助能力を向上させる。	
	レクリエーション活動	レクリエーション援助法 では、レクリエーション援助法 で学んだ内容を深め、実践力・応用力を高めるために、「テュートリアル」や「シュミレーション」を取り入れた授業形態で開講し、自学自習の学習態度を学ばせる。	
	英語	英語の基礎知識の再確認から始め、総合的な英語力の向上を目指す。大量の平易な英文を聞き、読み、話し、書く練習を繰り返すことによって、英語の音声、語彙、文構造、発想方法に習熟する。30名程度のクラスで学生同士の対話・共同作業を重視する演習を行う。個人またはグループによるプレゼンテーションを適時行う。同時期に開講される英語 と連携を図りながら授業を進める。	
	英語	英語の基礎知識の再確認から始め、総合的な英語力の向上を目指す。大量の平易な英文を聞き、読み、話し、書く練習を繰り返すことによって、英語の音声、語彙、文構造、発想方法に習熟する。30名程度のクラスで学生同士の対話・共同作業を重視する演習を行う。個人またはグループによるプレゼンテーションを適時行う。同時期に開講される英語 と連携を図りながら授業を進める。	
	英語	英語 ・英語 に引き続き、総合的な英語力の更なる向上を目指す。スキット作成、ロールプレイ、課題作文などの活動を通し既習の知識を定着、活性化させる。30名程度のクラスで学生同士の対話・共同作業を重視する演習を行う。個人またはグループによるプレゼンテーションを適時行う。同時期に開講される英語 と連携を図りながら授業を進める。	

授 業 科 目 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	英語	英語・英語に引き続き、総合的な英語力の更なる向上を目指す。スキット作成、ロールプレイ、課題作文などの活動を通し既習の知識を定着、活性化させる。30名程度のクラスで学生同士の対話・共同作業を重視する演習を行う。個人またはグループによるプレゼンテーションを適時行う。同時期に開講される英語と連携を図りながら授業を進める。	
	言葉と文化(英語)	自然な英語に耳を慣れさせ、英会話力を一層向上させることを目的とする。初級から中級レベルの英会話の授業である。日常生活でよく使われる表現を使って会話する上で必要な、動詞の活用や代名詞の使用の習慣、語彙の増強と縮約形の利用に重点を置く。教材としては、英米の若者の文化や生活習慣に関する英文やビデオなどをふんだんに使用する。原則として、授業は英語で行うが、学生のレベルは考慮する。	
	言葉と文化(英語)	言葉と文化(英語)を更に発展させ、実践的な英語によるコミュニケーション能力の習得を目的とする。口語表現を用いて「話す」と「書く」ことの訓練を重視する。学生が主体的に行うスピーチやライティングを通し、自分の考えを英語で表現し、さらに、意見交換をすることができる基礎力を身につけることを目指す。教材としては、英米の若者の文化や生活習慣に関するものを多く使用する。原則として授業は英語で行う。	
	言葉と文化(中国語)	中国語の初心者を対象とした入門レベルの授業。中国語の特徴、簡体字と繁体字、発音のローマ字表記、ピン音、音節の構造など、中国語に関する基礎的知識を身につけ、子音と母音、イントネーション、ピン音の綴りの規則、簡単な挨拶文、自己紹介文、年月日・曜日の表現、電話番号の言い方、人称代名詞・常用疑問詞・否定副詞・動詞「是」と「有」の用法を習得することを目標にする。中国の社会・歴史・文化にも触れつつ、授業を進める。	
	言葉と文化(中国語)	言葉と文化(中国語)で習った内容をふまえ、動詞・形容詞・助数詞の用法、句や文の構成法を重点に置き、時点・時間量の言い方、年齢の表現、値段の聞き方・お金の単位などの重要構文を正確に覚えておく。さらに動詞述語文の基本語順、推量・疑問・提案・命令の表現、時制とアスペクト、所在を表す動詞「在」と前置詞「在」、存在を表す動詞「有」と所有を表す動詞「有」など基本的な文法事項を身につけることを目指す。	
	医学英語	将来、理学療法士・作業療法士として医療現場で働く人にとって必要となるであろう基本的な英語医学用語を覚え、知らない用語の意味をも推測できるよう、それらの語源とその語の成り立ちについて学ぶ。医学論文を読み書くための基本的な技術についても学ぶほか、医療機関を訪れる外国人に接するときに役立つ英会話のこつ、英語を使うときの心構え、外国人と接するときのマナー等についても理解し、各人が国際的な視野を拓げられるよう学習する。	

授 業 科 目 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	情報処理演習	<p>「情報の処理及び表現の能力」「問題解決能力」の習得を目的に、いくつかの問題解決技法と問題解決のための表計算ソフトウェア利用技術の習得を目標に、以下の内容で授業を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表計算ソフトウェアの基礎 2. データベースの操作 3. アンケートの集計 4. グラフによるデータの可視化 5. 回帰分析によるデータの推定 6. 投票による社会的選択 7. 階層分析法による意思決定 8. モンテカルロシミュレーション 	
	情報処理演習	<p>「情報の収集、処理、及び表現の能力」の習得を目標に、口頭表現と表現技法、ストーリー（アウトライン）とシナリオの作成をテーマとして、模擬発表会中心の演習形式の授業を行う。授業は以下の内容で構成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーションの概要 2. プレゼンテーションソフトウェアの基本操作 3. 表現技法（口語表現） 4. 取材、ストーリー（アウトライン）とシナリオの作成 5. プレゼンテーション資料の作成 6. 発表会、相互評価 	
	基礎演習	<p>少人数による演習形式を用い、高校までの教師主導型の学習姿勢から、大学における自主的学習の学習姿勢へ移行するためのオリエンテーション的機能を果たす。問題点の発見と整理・討論・調査・発表等の作業を体験させることにより、大学での学習に必要な基礎能力を養成するとともに、医療関係職を目指す学生の持つ興味・関心を増幅し深めることによって、知的活動の動機付けを高め、能動的な学習意欲を高める。</p>	
	基礎演習	<p>「基礎演習」で習得した知識・技能を応用し、引き続き少人数形式の授業の中で、2年次から本格的に始まる専門分野の学習と研究に必要な読解能力、言語運用能力、調査能力、プレゼンテーション能力等を身につける。担当教員があらかじめ示したテーマを設定し、ゼミ形式の授業により、主として与えられた課題から、自ら問題点を考え、調査整理し、発表討論することにより、大学の専門教育を学習するための能動的意欲を養う。</p>	
主題科目	ボランティア入門	<p>ボランティアの本質は、主体性に基づく活動による「共感しあう社会づくり」にあるといえる。今日においては、ボランティア・市民活動として、多様な分野で取り組みがなされており、個別的にも社会的にも大切な役割を担っている。この科目では、ボランティアの思想と歴史、そして役割及び意義、今日的課題にいたるまで学習する。同時に、ボランティア活動の具体的事例を織り交ぜながら学ぶことにより、活動への参加意欲を高めたい。</p>	
	ボランティア活動	<p>学生が参加したボランティア活動について、科目担当教員等によって構成されるボランティア活動担当者連絡会議に、活動レポートが提出されたものを単位認定対象とする。一定の活動内容、活動時間等の要件を満たすことが確認された場合に、成績の評価、単位の認定を行う。ボランティア活動では、多様な活動への参加を促すよう、広範なボランティア活動について、単位認定を行う。</p>	
	ボランティア活動	<p>ボランティア活動では、ボランティア活動での体験を基に、個々の学生の学習目標に応じて選択した、継続的な活動を含むボランティア活動について、単位の認定を行う方針である。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 題 科 目	統計学	<p>理学療法学・作業療法学を含む諸科学では、調査・実験・臨床経験等から得たデータから必要な情報を引き出し、適切にまとめ、提示することが重要である。ここでは、理学療法学・作業療法学の学習や研究に必要な統計について学ぶ。授業は以下の内容で構成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統計法の基本概念1 (記述統計) 2. 相関と単回帰分析 3. 正規分布とその性質 4. 統計法の基本概念2 (推測統計) 5. 検定 6. 重回帰分析、分割表の検定 7. 応用事例とまとめ 	
	自然科学 (生物系)	<p>専門科目の基盤となる生物学の基礎的知識について理解を深める。生物学的なものの見方や考え方を身に付け、人体の構造と機能に関わる基礎知識を確実に習得する。さらに、新しい知見についても紹介し、生命現象に対する科学的倫理観を養う。授業は以下の項目から構成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞 (構造と機能、化学組成、浸透圧) 2. 生体内の化学反応・代謝 3. 遺伝のしくみ、細胞分裂と生殖 4. 感覚と運動、情報伝達 5. 恒常性 (体液の循環、肝臓・腎臓) 6. ホルモン・自律神経、生体防御 	
	自然科学 (物理系)	<p>物理学の目的は、目の前にある自然現象が従う法則性を見つけ、それを説明することである。そして、自然科学の中でも物理学はあらゆる科学の基礎であり、物理的な考え方を身に付けることは他の全ての分野にも応用できる広範な論理的思考力、および洞察力を養うことにもつながる。本講義では、物理学の中でも特に医療系分野の学生にとって重要な項目に重点を置き、自然の従う法則性の理解を第一としつつ、その法則を適切に説明するための数学的手法の習得を目的とする。</p>	
	自然科学 (数学系)	<p>医療系分野を含めた科学分野では、実験結果などを数字で定量的に提示しなければならない。数学を学ぶということは、単に公式を暗記して当てはめられるようになるのではなく、数学を使った情報伝達に必要な手順やポイントを理解し、それらを現実実践できるように練習を重ねることである。この講義では、高校までに学んできた数学を復習しながら数学的思考力を身につけるとともに、数学が必要とされる身近で実践的な具体例を挙げながら、医療系分野で必要とされる数学的知識や手法について学ぶ。</p>	
	自然科学 (化学系)	<p>自然科学は、自然現象の観察・実験をとおして、自然を理解する過程で発達してきた。自然現象の背後で働く原理について理解し、現代的な自然科学的物質観を涵養することを目的に、物質の構造と性質、物質の状態変化や反応を理解することを本講義の目標とする。本講義では、自然科学の一分野である化学における基本的な現象や概念・物質、例えば、原子・分子、水と水溶液、酸とアルカリ、酸化と還元などを生体や生体分子を題材として説明する。</p>	
	自然科学概論	<p>高度に発展した自然科学とその成果を負の側面も含め知ることは、現代に生きる人間の基礎的素養のひとつとして重要である。本講義では、現代的な自然科学的物質観を涵養することを目的とし、自然現象の背後で働く原理を理解し、自然科学の基礎的な知識や考え方を習得することを目標とする。講義は単なる科学史や現代自然科学の解説ではなく、科学者が到達した自然観や科学哲学にも触れる。また、自然科学における抽象化・モデル化の具体例を通して、科学的な議論の仕方や仕組みに言及する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 題 科 目	環境論	地球温暖化や生態系の破壊といった近年の環境問題の歴史と現状を学び、これらがわれわれ一人ひとりの生活に直結した問題であることを理解する。その上で、環境負荷を緩和し、生活環境を改善する手法の一つとして、特に植物による環境緑化の効用について学ぶ。植物の物理的効用だけでなく、さまざまな心理的効用についても論及し、人の心に癒しと安らぎを与える緑空間の可能性について考える。また、日本やヨーロッパの庭園史を学び、環境共生の時代へ向けて、われわれの住環境における新しい庭園のありかたについても考えたい。	
	自然地理	人類が生存・活動する舞台は、岩圏と気圏の境界にある。そこには人類生存に必要な大気・大地・土壌・水・生物が存在する。人類は、その発展とともに、工業化・都市化・爆発的人口増大などにより、環境への影響力を強め、数10億年かけて形成されてきた自然のバランスを破壊し、それによって人類自らの将来も破壊してきた。人類がより良く生き、より長く存在するために、自然への理解を深め、自然のバランスを破壊しない社会制度・生活スタイルを築き、種々の災害や環境問題に対応する智慧を身につける。	
	社会学	私たちは、「複雑な社会」に生きている。そこでは、「私」の行為が地球の裏側の人々に影響を与える可能性をもつ一方、「私」の元には相反した情報や多様な価値観が流れ込む。現在クローズアップされている様々な事象や社会問題を題材にとりあげて、そうした社会に生きる一員として、現代社会の特質とその変化について考えるための基本的な概念を学ぶ。それと同時に、個人と社会を重層的に捉えることのできる社会学的視点を身につける。	
	ソーシャルワーク論	ソーシャルワーク論 では、まずソーシャルワークの概念と範囲を明らかにした上で、欧米諸国及びわが国におけるソーシャルワークの歴史的形成過程をその時々での社会的背景との関係で明らかにしていく。またソーシャルワークの最も重要な価値基盤としてある「人間の尊厳」と「社会正義」の意義を確認し、その具体的適用としての権利擁護やエンパワメントの実践の意義について学ぶ。これに加え、「自立支援」「ノーマライゼーション」「ソーシャル・インクルージョン」等の理念についても紹介する。	
	ソーシャルワーク論	ソーシャルワーク論 では、ソーシャルワーク実践を担う専門職(ソーシャルワーカー)の概念と範囲を明らかにした上で、その専門職倫理とその必要性を職能団体の倫理綱領等を通じて学ぶ。また社会福祉領域の専門職としてのソーシャルワーカーと、保健医療、教育等の関連領域の専門職との間での連携及びチームアプローチの方法についてその意義と内容を学ぶ。なおソーシャルワーカー以外の対人援助専門職がソーシャルワークの技法を活用する意義についても言及する。	
	介護福祉論	介護福祉論は介護に必要な知識・技術・価値、倫理の基礎であるため、学ぶ範囲は幅広い。そこで、介護福祉論 では、人間の生活、家庭生活における家族の役割、高齢者・障害者の生活の理解、障害者の生活の困難性や障害者の権利を考える。次に介護福祉の歴史と発展、社会的役割を理解する。その上で介護の対象者や看護など関連領域との連携を学び、介護の具体的な業務内容を理解する。また、諸外国における介護福祉の現状と課題について考える機会とする。介護福祉に必要な対人援助法の技法を紹介し実践的な学びにつなげる。	

授 業 科 目 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 題 科 目	介護福祉論	介護福祉論では、日常生活で必要となる具体的支援技術の知識・技術・倫理を学ぶ。重ねて倫理については、各職能団体の倫理綱領があるので連携する専門職の考え方も紹介したい。介護の対象者が生活している場所により、活動の場は拡大されるが、より良い生活の維持を目指して支援する視点も考えさせたい。その為には、生活を支えるサービスと提供を結びつけ支援する手法も紹介したい。支援をするには支援する側の健康と安全も重要であり自身の安全と感染予防に留意することも学ぶ。併せて対象者に安全に技術を提供する技術を考える学びとしたい。	
	高齢者福祉論	高齢者福祉論では、まず今日の高齢者がおかれている全体的状況と、高齢者の生活ニーズ及び高齢社会が抱える問題について概観する。その上で、わが国の高齢者保健福祉制度の変遷過程と現状及び課題を明らかにしていく。また現在の高齢者保健福祉制度の中で重要な位置を占めている介護保険制度については、成立の意義及び制度の仕組みと、そのサービス内容、専門職の役割等について学んでいく。特に介護保険制度における社会福祉専門職と保健医療専門職の連携のあり方について言及する。	
	障害者福祉論	現代社会における障害福祉の理念と意義について理解する。障害福祉史から施策の変遷及び動向を理解するとともに障害者自立支援法の概念とサービス体系・諸制度を理解する。障害者福祉及び関連分野の専門性及び連携のあり方を理解する。障害者の実態を解説し医療相談援助活動、介護サービス活動の具体的事例を解説し医療援助・福祉援助の連携支援を理解する。	
	法学(憲法)	法学一般及び憲法の基礎知識と理論の実用的習得を主要な目的とする。概要として、法学一般は法の目的、法規範、法の分類と体系等、憲法は日本国憲法の特色と基本原理、基本的人権の特質と分類、最後に統治機構の問題として三権各々の内容と特色等基礎知識と理論を講義する。そして社会及び日常生活における法の作用や役割についても言及し、理学療法士・作業療法士が常識や教養として知っておくべき法律の重要性を理解するようにもっていきたい。	
	法学	法学の学習において憲法と同様に重要である民法と行政法の基礎知識と理論の習得を主な目標とし、日常生活や職業と民法及び行政法との関わりを実際の事例を紹介しながら講義する。内容としては一般教養的な法律知識と理学療法士・作業療法士として必要とされる専門的な法律知識を織り交ぜた構成とする。具体的には、民法では財産法の特色や契約法及び不法行為法の基礎知識や理論、宗教法の特色を、行政法では行政活動、行政救済、行政手続や地方自治等の基礎知識や理論を講義する。	
	医療関係法	理学療法士・作業療法士は、医師をはじめ他の医療従事者と連携協力して患者の健康、生活や人権を守っていかねばならない大きな使命をもつ。その際、専門的技術や知識と同様に法律の知識や理論の習得が必要となってくる。本講義では、理学療法士・作業療法士として理解しておくべき法律の基礎知識と理論について講義する。具体的には、医療法、理学療法士及び作業療法士法だけでなく、医師法や保健師助産師看護師法、医療保険法・介護保険法、保健衛生法規や福祉関係法規、さらには医療関係者と患者の契約等の法律関係、医療事故と民事・刑事責任等を対象とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 題 科 目	美術	<p>絵画や彫刻等の純粋美術のみならず、ファッションや映像、デザイン等現代人の生活と美術は切り離すことができない。本講義では広く美術に関する教養を修めさせることを目指しているが、一方で、社会におけるその重要性や必要性について、特に医療健康学部の学生を対象にした、ヒーリングアートやバリアフリーデザイン等についても専門的な知識が得られるようレクチュアを心がけている。一部で、絵を描く際に重要な右脳をトレーニングするためのスケッチ等も取り入れている。</p>	
	日本文学	<p>無常観や人生観、処世訓など、幅広い分野にわたって自分なりの論を展開している、我が国の著名な古典文学の一つである吉田兼好の随筆「徒然草」を取り上げ、日頃音読する機会が少ない学生に、15週の毎時間交互に指名によってその原文を音読させ、さらに予め用意した口語訳を参考にしてその内容を学習する。併せて、その内容が自分たちが生きている今の現代生活にも、参考になることが多いことを改めて確認し、各段において、それぞれ自分はどういう考えを持っているかを発表する。</p>	
	日本文学	<p>江戸中期の俳人、松尾芭蕉の代表的紀行文である「奥の細道」を取り上げ、それを教材として日頃音読する機会が少ない学生に15週の毎時間指名によって原文を音読させ、さらに予め用意した口語訳を参考にしてその内容を理解する。併せて、そのたおやかな感性に触れて、現代生活にも活かして行けるようにする。即ち17文字の俳句を参考にして、近年流行の季語不要の面白味のある「川柳」にも関心を持たせたい。またこの文学に関連して、地元金沢の三大文豪である室生犀星、徳田秋声、泉鏡花の作品についても学習する。</p>	
	日本史	<p>日本の古代・中世の歴史の流れについて概説します。縄文文化の特異性。本格的な水稲農業の始まりから統一国家が形成されるまで。東アジア情勢の変動と大化改新の関連性。日本の律令制度はなぜ短期間で崩壊するのか。やがて中央では日本型政治形態の先駆といえる摂関政治が成立し、地方では武士と呼ばれる階層が誕生する。関東武士団の独立運動に端を発する鎌倉幕府の成立。惣領制支配の限界による鎌倉幕府の崩壊。やがて南北朝の内乱を経て室町幕府が成立するまで。</p>	
	日本史	<p>日本の近世の歴史の流れについて概説します。中世的支配から脱却し新たな支配方式を模索する戦国大名たち。織豊政権の誕生。なぜ徳川幕府は長期安定政権たり得たのか。貨幣経済の発展による幕藩体制の矛盾の拡大、外国船の来航による国際的緊張の高まりという時代背景の中で。特に田沼意次・阿部正弘・井伊直弼をピックアップし再評価する。薩摩藩の老獪な外交政策と徳川幕府の崩壊。廃藩置県によって近代国家の基礎が成立するまで。</p>	
	東洋史	<p>東アジア諸国交流・共生、各民族の文化衝突・融合の歴史に注目し、近年発見された考古学資料を講義に組み込んで、東洋の歴史と文化伝統に対する理解を一層深めさせる。東アジアにおける農耕文明と遊牧文明の起源、稲作文化の伝播、殷・周都市国家から秦・漢統一帝国への転換、漢王朝の西域経営と朝鮮半島の支配、五胡十六国時代の民族大移動、隋・唐律令国家の成立、朝鮮半島三国の興亡、モンゴル帝国のユーラシア大陸征服戦争、明王朝の北虜南倭の危機、アヘン戦争と中華帝国の崩壊など歴史における画期的な出来事を分析し、歴史の流れと全体像を把握しながら講義を進める。</p>	
	専門基本科目	解剖学	<p>理学療法・作業療法を学ぶ上で最も基礎となる人体の構造について、系統解剖学的に講義する。総論(定義・歴史・用語等)の後、人体の構成について大まかに講義をする。次いで、筋学と並んで理学療法・作業療法で最も重要な骨格系を取り上げ、骨学および関節学について学習する。骨学総論、骨学各論、関節靭帯学総論、関節靭帯学各論の順に学習する。</p>

授 業 科 目 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基本科目	解剖学	解剖学総論終了後、解剖学 並びに解剖学 と並行して系統解剖学的に講義する。解剖学 では心血管系とリンパ系などの循環器系について学習する。次いで消化器系や呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系などの内臓学について学習する。次に外皮、視覚器、平衡聴覚器などの感覚器系について学習し、最後に人体の発生について学習する。	
	解剖学	解剖学 に引き続き、人体の構造について系統解剖学的に講義する。骨格系と並んで理学療法・作業療法で最も重要な筋学を学習する。筋学総論、筋学各論の順で学び、筋の名称・起始停止・作用・神経支配などを学習する。系統解剖の最後は神経学を学ぶ。神経学は中枢神経系と末梢神経系に分け、その構造を学習する。	
	解剖学	解剖学 では解剖学 ・ ・ で学習したことをベースに、理学療法・作業療法の基礎として重要となる体表解剖について学習する。体表解剖学では筋系、脈管系、神経系の位置と相互の位置関係について学習する。また、肉眼解剖学のまとめとして、人体解剖見学を行う。	
	解剖学実習	講義での解剖学を、実習を通じて学習するのが解剖学実習である。解剖学実習では骨標本や関節標本を観察し、その構造を理解する。また、骨や関節の触診実技を行い、理解を深めてもらう。また、組織標本の顕微鏡観察により、細胞がいかにして組織・器官を構成しているかを学ぶ。次に小動物の解剖を行うことで、我々ヒトを含む脊椎動物の基本構造を学び、組織・器官が個体を構成する様子を観察する。	
	生理学	生理学は、人体諸器官の正常な機能(働き)を理解する科目である。特に生理学 では、基本的な細胞の構造と機能を学習した後、主に神経系を介する生体の機能調節機構について学習する。まず神経や筋を構成する興奮性細胞の刺激受容や興奮、筋細胞の収縮機序などの一般生理学を学び、次いで、本科目が医療健康学部の学生を対象とすることに鑑み、神経・筋・感覚等の動物性功能とそれらの総合としての運動生理学に重点を置いて学習する。さらに、ホメオスタシスの維持を理解するため、体温調節その他の自律性調節について学習する。	
	生理学	生理学 では、自律神経やホルモンにより調節される体液と電解質、血液と免疫、心臓と血液循環、呼吸とガス交換、消化と吸収、尿の生成と排出など諸臓器の植物性功能について学習する。さらに、単に個々の臓器の働きを理解するのみでは無く、異なる臓器と臓器の関係性を学び、ホメオスタシス維持のため生体全体として、統合的機能を組み立てる仕組みについて理解することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基本 科目	生理学実習	本実習の前半では、学生自身を被験者としてヒトの心電図・血圧・呼吸・腎機能等に関する実習を行う。また、後半では実験動物を用い、神経の活動電位・骨格筋の収縮・心筋の特性・心拍の制御・反射・筋感覚等に関する実習を行う。実習全体を通し、基本的な測定法や記録法・データ処理の仕方・結果のまとめ方を学ぶほか、ヒトや動物を被験体として使う際の倫理等にも留意し、今後につながる実験者としての態度を養うことを目標とする。実習は体験を通じての理解への行程である。	
	運動学	授業形態は講義と問題解決型小グループ課題学習とする。運動学の到達目標は、最終的に学生が身体運動の正常と異常の判断が出来るようになることを目指し、身体運動を構成する構造学および機能学的要因を挙げられること。授業計画は運動学の定義、歴史、目的を教授した後、姿勢の意義、基本的動作、運動の分析、動作分析に必要な力学の基礎、運動器官の構造と機能、運動学習の基礎理論、運動処方等に関する基礎理論を教授する。正常および効率の良い運動様式等に関連した問題解決型小グループ学習を行わせる。	
	運動学	運動学では、主に肩関節、肘関節、手関節、手指などの上肢の関節運動学、股関節、膝関節、足関節の下肢の関節運動学、頭部、顔面、体幹の関節運動学など関節運動に関する内容を理解させる。関節運動学では、その構造と、機能解剖学的見地で考える重要性を説き、運動に関わる構造と機能が説明できるようになることを目標とする。また、運動と呼吸、循環に関する運動学、体力と運動処方に関する運動学も内容として加え、身体のメカニズムを明らかにしていく。	
	運動学実習	授業形態は小グループ毎に実習を通し問題解決型学習で行う。到達目標は学生が身体運動の客観的記述が可能になること。また、ヒトの運動を力学と運動生理学的観点から説明できること、実際に運動や動作を測定・記録・表現できるようになることを目指す。授業計画は触察による体表の観察、身体計測、三次元動作解析、機械的筋出力の測定、表面筋電図測定、運動負荷試験、平衡機能検査等について学生自ら実施するための基本的な課題に加え、学生が自ら設定した課題について小グループ学習方法による実習を行う。	
	人間発達学	発達とは、生物の個体発生の過程で示される比較的永続的な生体の変化であるとされる。ここでは、人間の胎児期から高齢期までの知覚、認知、学習、記憶等の心理的な諸特性の変化や、それらに関連した身体的な変化、発達障害の問題や社会的関係の変化などについて学習していく。	
	病理学	病理学は細胞や組織の形態的变化から病気の原因、機序を考察する事からpathos 苦難のlogos学問pathologyと名付けられました。医療に係わる者は病気を理解する必要がある、病理学は重要な科目です。病理学を総論と各論に分けて学びます。総論は疾患を 退行性病変(萎縮、代謝障害、壊死)、 進行性病変(肥大、増生、再生、化生、創傷治癒、異物処理)、 循環障害、 炎症、 奇形、 腫瘍の組み合わせとして理解し、各論で代表的な疾患を総論で学んだ知識を基に疾患を体系化します。	

授 業 科 目 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 基 本 科 目	臨床心理学	臨床心理学は、人間の心の問題について、心理学の人間理解と心理学的援助技法を用いて、対象者の心理的適応や発達を促進し、自己実現を支援していくという実践的な学問です。臨床心理学では、基本理論を概説し、心理的な問題を理解するためのアセスメントについて学習します。アセスメントのためのデータの収集技法と分析技法について学びます。発達段階の違いや被った障害によって異なる心理的問題について理解を深めることを目標とします。	
	臨床心理学	臨床心理学では、臨床心理学で学んだことを基礎として、心理的問題に介入する理論モデルと介入技法について学習します。臨床心理学は多くの理論的立場と技法から成り立っています。その中のおもな理論について概説し、心理学の人間理解の方法について理解を深めます。心理的援助のための個人療法および集団療法の介入技法について基礎的な学習をします。さらにコミュニティにおける相談活動の実際についても学びます。	
	心理学	行動の科学としての心理学について、どのような研究が行われ、どのようなことが明らかにされてきたかについて学んでいく。認知、記憶、学習、コミュニケーション、集団、生理心理、比較心理等の各研究分野の成果について、簡単な心理テスト・実験等を交えて学び、心理学に関する基礎的理解を深める。そして、心理学を生活の中で生かす方法についても考えていく。	
	カウンセリング演習	理学療法士・作業療法士が活動する場面では、人と人とのかわり、コミュニケーションが非常に重要になってきます。コミュニケーションは言語的なやり取りだけではなく、非言語的な要素を読み取ることが非常に重要です。カウンセリング演習では、コミュニケーションスキルを含むカウンセリングの基礎について学習を行います。そして、理学療法・作業療法の場面でも活用できる基礎的なカウンセリングの技術をロールプレイなども交えて学んでいきます。	
	高齢者の心理	発達とは、個体発生の過程における比較的永続的な変化であるとされる。また、成長、成熟、老化等は発達の变化の一部と考えられる。ここでは、発達過程全般の理解を基礎として、高齢者の特性について理解していく。そして、高齢化にともなう心理的特性、身体的特性の変化等に関する基本的な事項を理解し、基礎的な知識について学ぶとともに、様々な事例への対応についても考えていく。	
	障害者の心理	障害に関して理解するためには、自分自身との共通点にも注目することが重要と考えられる。ここでは、障害のある人達の心理的特性に関する基礎的知識について学び、障害のある人達の体験に関する理解を深めていく。そして、障害のある人達の家族の支援や、環境の整備等を含めた、様々な事例への対応についても考えていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 基 本 科 目	精神医学	<p>精神健康の基礎知識および精神障害を有する人のリハビリテーションを展開していくための精神医学の基礎知識を習得する。また、精神障害者の人権尊重と倫理的配慮を習得する。</p> <p>授業概要：(1)定義と診断・分類(2)精神症状(3)脳と精神機能(4)検査(脳波、画像検査心理検査)(5)各論(統合失調症、気分障害、老年期精神障害、器質性精神障害、発達障害、アルコール関連障害、薬物依存、神経症性障害、摂食障害・睡眠障害、人格障害、てんかん等)(6)治療(7)精神保健福祉法、医療観察法(8)社会復帰とリハビリテーション</p>	
	医学概論	<p>理学療法士・作業療法士にとって必要な基礎医学、臨床医学、社会医学の定義や領域を概説する。健康と疾病の概念、疾病の原因としての遺伝因子と環境因子について詳述する。近年重視されているチーム医療に果たす理学療法士・作業療法士の役割について理解させる。医療を行う際に必要な医の倫理、ヘルシンキ宣言とインフォームドコンセント、患者の権利、カルテ記載と保存、情報公開制度、守秘義務等について理解させる。健康増進対策、保健医療制度、医事法制、保健医療専門職、医療施設、保健衛生法規、老人保健法、福祉関係法規等について理解させる。</p>	
	健康科学	<p>人がよく生きるためには、その身体だけではなく、精神も健康でなければならない。また、身体や精神の健康は、その人が生活している環境や社会的な条件が健全でなければ保てない。そのような問題を論理的、体系的に研究する学問が健康科学である。この健康科学を理解するために、からだの働きと仕組みについて簡単に学び、その後、病むとは何か、病気を予防する方策、心身の健康維持・増進の方策、環境問題や日本人の生命観など、いわゆる健康問題につき総合的・包括的に学習する。</p>	
	生命と医療の倫理	<p>医療専門職にとって不可欠な「医の倫理」、「生命倫理」の意義と基本的な考え方を習得する。</p> <p>授業概要：(1)生命倫理、医の倫理の基本的考え方(2)医療職にとっての生命倫理の意義と限界(3)アドボカシーと患者の権利(4)インフォームド・コンセントと疾病構造の変化(5)医療過誤と法的責任(6)生殖補助医療・臓器移植と倫理(7)安楽死・尊厳死、ターミナル医療(8)医学研究の倫理(9)ヘルシンキ宣言</p>	
	内科学	<p>内科診断学(問診の仕方、記録の仕方、重要な疾患やありふれた疾患に見られる症状と徴候、症状や徴候の基になる病態生理等)を理解させる。重要な生化学的検査、生理学的検査、画像検査等の実施目的や方法の概略、検査の必要性の判断、検査実施上の注意、検査結果の見方等の概略を理解させる。治療学総論、移植医療、ターミナルケア等について理解させる。</p>	
	内科学	<p>感染症、膠原病、アレルギー疾患、自己免疫疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、代謝疾患、内分泌疾患、血液・造血器疾患、腎・泌尿器疾患、運動器疾患、中毒・物理的原因による疾患、生活習慣病、難病等について、その病態生理、疫学、症状と徴候、診断法、治療法、予後等について概説する。理学療法士・作業療法士として必要な知識の習得を目的とするため、治療については一般療法やリハビリテーションについて詳しく解説するように心がける。</p>	
	整形外科	<p>整形外科は骨、運動器疾患を対象とした医学であり、運動機能再建が主目的である事からリハビリテーション医学と直接にかかわる重要な科目である。ここでは理学療法・作業療法に必要な整形外科的知識について講義する。即ち総論での疾病の診断・治療法を含めて整形外科の概論を、各論で先天異常・骨・関節・神経・筋等の器官について述べ、各部位の疾患と外傷について講義する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 基 本 科 目	整形外科	整形外科 では、整形外科 で学習した内容を基礎とし、代表的な整形外科疾患の症例を提示し、実際に行われる診療をシミュレーションしながら、整形外科からリハビリテーションに入るまでの患者の病態と障害像を考える。患者にとってもっともよいリハビリテーションに貢献できる基本的な医学的知識を学習する。	
	神経内科学	リハビリテーション医療の対象となる神経疾患の病態と診断、治療についての知識を習得し、さらに個々の障害に対する評価法と基本的なリハビリテーション治療の理解を深める。 授業概要： 定義・診断・症候学 (1)末梢性麻痺(2)中枢性麻痺(3)筋萎縮 (4)失調(5)錐体外路性障害(6)知覚障害(7)構音障害、嚥下障害(8)高次脳機能障害 (9)その他 諸検査法	
	神経内科学	リハビリテーション医療の対象となる神経疾患の病態と診断、治療についての知識を習得する。 授業概要：(1)脳血管障害(2)外傷、感染性疾患(3)変性疾患、脱髄疾患(4)脊髄疾患(5)筋疾患(6)末梢神経疾患(7)錐体外路の変性疾患(8)認知症(9)小児神経疾患(10)高次脳機能障害 (11)その他	
	小児科学	小児の身体発育や身体機能の発達および精神発達、人格形成について一般的な解説を行うと共に、これらに影響を及ぼす因子や影響への対策についても解説する。小児保健では、その内容や制度について主に解説する。先天異常、急性疾患、慢性疾患などの各種疾患では、その疫学、診断、治療、療育について主に解説する。単に小児科領域における病気を理解するだけでなく、子供という人間、親を含めた子供を取り巻く環境についても理解が進むような講義としたい。	
	老年学	高齢者における特性(身体的・心理的・社会的変化、老化)を理解したうえで、高齢者に多くみられる疾患の病態、治療の知識を習得する。また高齢者の機能評価法、高齢者をめぐる介護、福祉などの社会的問題を理解する。 授業概要：(1)老化と老年病(2)加齢に伴う変化(3)老年症候群(4)脳血管障害(5)呼吸器・消化器・循環器・腎泌尿器科・内分泌代謝疾患・感覚器疾患等(6)老年期のメンタルヘルス(7)認知症(8)死生観・ターミナルケア(9)介護保険など	
	安全管理	理学療法士・作業療法士が活躍する医療等の現場での安全管理は、職務内容の専門性の高さ、人間という対象の複雑さ(個人差、短時間での状態変化)、多くの職種の人に関与する状況等から特異性があるともいわれる。ここでは、理学療法士・作業療法士に求められる安全管理の重要性、エラー・事故等の発生の要因、安全管理に必要な事項、その実践方法等を中心に学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基本 科目	感染防御	理学療法士・作業療法士が活動する医療等の現場では、施設内感染の複雑化が進行しており、感染防御の取組が重要となっている。理学療法士・作業療法士は、患者、施設利用者等の感染の媒体となることを防ぐと共に、自身が感染することを防ぐ必要がある。ここでは、細菌・ウイルス等による主要な感染症、感染の要因・経路、感染防御の具体的方法等について学ぶ。	
	公衆衛生学	集団を対象とした健康の保持増進、疾病予防と早期発見及びリハビリテーション等の公衆衛生的接近法についての理解を深め、保健福祉領域における公衆衛生学の意義について論ずる。また、感染防御の原理と実際について論じる。	
	リハビリテーション医学	リハビリテーション医学の基本的事項について、講義を行う。具体的内容は、障害の評価、機能障害の病態生理と回復、廃用症候群などの病態生理、治療理論、リハビリテーション医学の臨床等である。また、リハビリテーションの現場における安全管理の必要性と、安全管理の具体的方法等について学ぶ。	
	リハビリテーション概論	リハビリテーション概論では、リハビリテーションの歴史と理念、およびその仕組みについて教授する。具体的には、リハビリテーションの定義、歴史、目的を概説した後、障害分類、医療従事者とチーム、関係法規・保健医療福祉行政、医学的、社会的、教育的、職業的、工学的リハビリテーション、地域リハビリテーション等について、諸外国のリハビリテーションと比較して概説する。また、病期に合わせたリハビリテーションを整理し、その特徴を解説する。	
	社会福祉概論	社会福祉の理念と意義をはじめ、社会福祉の主体、対象、歴史的展開について扱い、さらに社会福祉援助の具体的な形態と方法および社会福祉援助活動における専門性と倫理などについて扱う。	
	社会福祉概論	社会福祉関係法制と実施体制および財政全体の概要をはじめ、社会福祉の分野と社会福祉士、介護福祉士および保育士の専門性と役割について、さらに、社会福祉をめぐる日本および諸外国の動向と課題について扱う。	
	ケアマネージメント	ケアマネージャーは、介護保険制度を運営する中で、中核的な役割を果たす存在であるといわれ、リハビリテーションと福祉との連携においても重要です。また、理学療法士・作業療法士も、一定期間以上の実務経験をつむことによって、ケアマネージャーの受験資格を得られます。ここでは、ケアマネージャーの役割や、マネージメントの基本的事項について学びます。	

授 業 科 目 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 展 開 科 目	作業療法学概論	作業療法の歴史と哲学、作業と健康、作業障害、作業療法の対象者など作業療法の概要を理解する。また、人々の健康に貢献する専門職としての作業療法の目的を理解し、作業療法という専門職が健康をどのように考え、人々の健康にどう貢献してきたかを学ぶ。そして、作業ができないことがどれだけその人の生活に影響を与えるかを知り、作業障害に果敢に取り組む作業療法の現在を学ぶ。また、作業療法実践の枠組みを知り、作業療法モデル論、作業科学について理解を深める。さらに、進化する作業療法について学ぶ。	
	基礎作業療法学	作業療法を支える学問である作業科学への理解を深めるため、「作業」や「作業活動」が人間の生活とどのような関係にあるのか、その基礎的内容を学習する。また、「作業」、「作業活動」、「活動」、「動作」の意味を理解する。さらに、作業分析の方法を動作分析の体験を通して学習し、病気や怪我による障害が「作業」や「動作」、さらに人間の生活にどのように影響を及ぼすのか理解を深める。	
	作業療法教育管理学	リハビリテーションはチーム医療である。その一員として大きな役割を担う作業療法部門の位置づけ、他職種との連携の重要性、作業療法部門の業務管理・運営について学習する。また、社会の一員としての作業療法士のあり方、業務において必須となる職員教育、臨床実習指導者としての学生教育への携わり方、および教育の考え方について学習する。	
	作業療法研究法	科学的研究の種類、プロセス、論文の構成と書き方、およびプレゼンテーションの仕方について講義する。また、科学情報の分析に必須である統計学の基礎について理解する。さらに、表計算を用いた簡単なデータ分析、プレゼンテーションソフトを用いたプレゼンテーション、レポートの作成、ディスカッションについて、経験を通して学習する。	
	病態運動学	作業療法の対象となる骨・関節疾患や中枢神経疾患は、姿勢や運動障害との関連において様々な病態を呈している。病態運動学は運動学を基礎として、臨床運動学的な視点から、姿勢や筋・神経の障害に焦点を当てながら疾患別に病態について、その特性とメカニズムを理解しながら学習する。作業療法における運動障害の評価や治療、さらに治療効果の判定に応用する方法についても学習する。授業形態は講義と問題解決型小グループ課題学習により、主体的な理解を促す。	
	作業療法評価概論	作業療法評価の概要と考え方を学ぶ。作業療法評価の意義と目的、流れなどの基本を理解する。同時に、情報収集の手法（面接・観察・検査測定）の概要を学ぶ。そして、国際分類に基づいて、生活機能と障害の階層を構造的に理解するとともに、そのモデルを基盤に、情報の統合について考え、人の全体像の把握方法を知る。さらに、階層（心身機能・身体構造、活動、参加、背景因子）ごとに必要とされる情報項目とその収集法を理解する。具体的にCOPM（カナダ作業遂行測定）、FIM、AMPS（運動とプロセス技能モデル）、QOL評価等を経験する。	

授 業 科 目 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 展 開 科 目	検査・測定論	検査・測定論 では、作業療法の対象を適切に評価し、問題点を把握していく上で必要である基本的な評価項目の目的、検査方法について講義を行う。具体的には、各種運動機能障害に共通した基本的評価である関節可動域測定（ROM-T）および徒手筋力検査（MMT）について行う。また、運動機能障害を動作的に調べる姿勢・動作分析、日常生活活動（動作）（ADL）の評価法であるBI（Barthel Index）やFIM（Functional Independence Measure）などについてもあわせて講義を行う。	
	検査・測定論	検査・測定論 では、検査・測定論 に続き作業療法におけるさまざまな評価の目的とその具体的な検査方法について講義を行う。具体的には、観察および問診による病歴の取り方、バイタルサイン、脳神経検査、形態測定、感覚検査、反射検査、協調性検査、筋トーンス検査、バランス検査、片麻痺運動機能検査、上肢機能検査を行う。加えて、得られた評価結果から障害像を明確にし、問題点の抽出、目標の設定、考察を行う手法を学び、適切な治療プログラムの立案までの過程を学習する。	
	検査・測定実習	徒手・観察による作業療法的検査について、主に検査・測定論 で学んだ関節可動域測定（ROM-T）および徒手筋力検査（MMT）の技術、姿勢・動作分析および日常生活活動（動作）（ADL）の観察力を習得する。具体的には、学生同士で検査者、被検査者となり実際の評価手技を行うことで、検査・測定の目的や結果の解釈などの理論的な背景の理解を深める。また、測定手技の習熟と健常者での測定値を理解することを目的として、実技でも学生同士が検査者、被検査者となり、繰り返し測定を行う。	
	検査・測定実習	作業療法的検査について、主に検査・測定論 で学んだ評価項目について実技を通して手技を習得する。具体的には、さまざまな疾患の模擬患者を想定し、面接から始まり、症例に則した検査・測定項目の選択を行い、評価を実施し、その評価結果を踏まえた治療計画に至るまでの展開方法を習得する。あわせて、模擬患者役となった学生に対し、医療技術者として、作業療法士として適切な態度で対応することにより、臨床での症例に対する対応についても学習する。	
	作業療法治療学（身体）	身体障害分野で主に作業療法の対象となる疾患の病態像および疾患の特性、対象者に対する疾患別の作業療法の実践について講義を行う。具体的には、脳血管障害の急性期・回復期・維持期の各期における治療方法、末梢神経損傷や骨折などの整形外科疾患における治療方法、パーキンソン病などの神経・筋疾患における治療方法、その他呼吸・代謝疾患などの治療方法を教授する。また、義肢装具やスプリント、自助具などの適応、治療プログラム立案における要点などもあわせて講義を行う。	
	作業療法治療学（中枢1）	作業療法治療学（中枢1）では脊髄損傷（頸髄損傷を含む）についてその障害像を学習する。脊髄損傷の損傷部位別の分類について、脊髄損傷の病態（反射や運動麻痺のタイプ、感覚傷害、呼吸傷害、自律神経障害、合併症など）について学習する。さらにFrankelの分類やASIAなど脊髄損傷に対する作業療法評価や、脊髄損傷に対する作業療法訓練（筋力増強や座位バランス訓練、ADL訓練、環境調整など）についても学習する。授業形態は講義を中心に行うが、実技を織り交ぜながら進めていく。また確認小テストも随時行いながら進めていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 展 開 科 目	作業療法治療学 (中 枢2)	作業療法治療学 (中枢2)では、主に中枢神経疾患の病態、及び障害像について学習し、対象者に対しての作業療法の評価・介入方法について学習する。具体的には脳血管障害の急性期、回復期、維持期、また頭部外傷、パーキンソン病や脊髄小脳変性症などの神経筋疾患等の病態、傷害像、作業療法評価・介入方法について学習する。授業形態は講義を中心に行うが、実技を織り交ぜながら進めていく。また確認小テストも随時行いながら進めていく。	
	作業療法治療学 (精 神障害)	精神医療における作業療法の目的と役割、治療構造について理解することを目的とする。精神医療の歴史と作業療法の歩みから、作業療法の目的とその役割を理解する。また、精神疾患・精神障害者の心身の特徴の理解を基礎として、作業療法の目的と方法・治療の流れについて学習する。精神障害領域の作業療法における各種評価から治療計画立案にいたる基礎技法を獲得するとともに、各種評価の記録法について学習する。また、主な治療理論について学習する。	
	作業療法治療学 (内 部障害)	心疾患、呼吸器疾患、糖尿病などの内部障害を呈する疾患の病態やそれに伴う障害について学習する。また、これらの疾患に対する作業療法で実施する評価や治療・援助法について学習する。さらに、近年、リハビリテーション領域で注目されている呼吸・嚥下障害に対する理解を深めるため、口腔の解剖、嚥下のメカニズム、作業療法場面における嚥下の評価法、治療法についても学習する。	
	作業療法治療学 (老 年期)	作業療法治療学 (老年期)では老年期の特徴と障害について学習する。老化(生理的变化)について理解し、またそれに伴う障害(低栄養、転倒による骨折、廃用症候群、認知症など)についての関連性を理解するとともに、対象者に対する作業療法評価、介入方法を学習する。また高齢者を取り巻く社会的問題、社会資源、関連制度、QOLなどについても学習する。授業形態は講義を中心に行う。また確認小テストも随時行いながら進めていく。	
	作業療法治療学 (高 次脳機能)	脳の機能解剖学の基礎知識をもとに、脳の器質的病変に伴う高次脳機能障害に対する評価と、治療的介入について学習することを目的とする。また、CT・MRIの画像診断について臨床像と合わせて理解を深める。高次脳機能障害を把握するために必要な評価手段を理解し選択することができるよう、失語症・失行症・失認症のほか、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害への理解を深める。また各種検査の演習を行い、高次脳機能の評価全般を実施できるようにする。	
	作業療法治療学 (発 達障害)	人間発達学の講義をもとに、定型的発達に関する知識を、発達障がいの評価・治療と関連付けて理解することを目的とする。発達検査・知能検査などの基礎的評価技法を修得するとともに、発達障害領域における主要な疾患の臨床上の特徴と治療的介入について学習する。また、将来的に自立した生活が送れるよう、心身機能・身体構造上の問題のみに着眼するのではなく、対象児の家庭環境・教育環境・社会生活環境を含めた評価とその介入法について学習する。摂食嚥下機能に対する評価・介入と姿勢保持具についても合わせて学習する。	

授 業 科 目 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 展 開 科 目	作業療法治療学 (職業前)	作業療法治療学 (職業前)では職業関連活動における作業療法の位置づけ、制度、障害者の雇用の現状について学習する。具体的には、障害者にとっての職業の意義について、障害者の雇用の促進等に関する法律や制度について、障害者の職場の環境整備と調整についてなどを学習する。さらに、作業療法における職業評価や、障害特性と職業的な課題についても学習する。また、小グループでのディスカッション、発表も行う予定である。	
	作業療法治療学実習 (身体)	作業療法治療学実習 (身体)では、作業療法治療学 (身体)で学んだ疾患別の作業療法の実践方法をもとに、実際の各疾患別の評価および治療技術の習得を図る。具体的には、脳血管障害、整形外科疾患、神経・筋疾患における代表的な疾患を取り上げ、それぞれの疾患に対して徒手・観察による治療の介入を習得する。また、作業活動の治療的な応用を疾患別に捉え、それによる治療の方法を習得する。その他日常生活における動作の工夫や環境調整、社会へ適応についてもあわせて学習する。	
	作業療法治療学実習 (中枢1)	作業療法治療学実習 (中枢1)では、作業療法治療学 (中枢1)で学習した脊髄損傷(頸髄損傷を含む)についての内容を、演習を通してさらに深める。小グループで模擬患者を設定し、一般的な評価法や訓練を実際に行うことによって、脊髄損傷患者に対する作業療法実施時の注意点についても学習する。また小グループでの脊髄損傷患者のADL訓練手段についての文献調査とディスカッション、発表も行い、学生の主体的な参加を促す。	
	作業療法治療学実習 (中枢2)	作業療法治療学実習 (中枢2)では、作業療法治療学 (中枢2)で学習した中枢神経疾患についての内容を、演習を通してさらに深める。特に脳血管障害に伴う片麻痺の障害像を理解し、回復段階にあわせた評価、訓練およびリスク管理の重要性を理解する。また、小グループで模擬患者を設定し、一般的な評価法や訓練を実際に行う。また脳血管障害患者の評価や訓練について文献調査とディスカッション、発表も行い、学生の主体的な参加を促す。	
	作業療法治療学実習 (精神障害)	精神科領域の作業療法の主な対象となる精神疾患の特徴について理解し、それに起因する生活障害の特性と介入法について総合的に学習し、実践できる基礎を築くことを目的とする。幅広いライフステージや回復過程に応じた作業療法の実践や、地域生活支援の視点と実践についても学習する。個人療法・集団療法と作業の治療的利用・治療的自己の利用について学習し、治療における基本的技法を修得する。また、精神科作業療法に関連する法制度についても学習する。	
	義肢装具学	障がい者の運動・行動能力を補完する用具として義肢装具がある。義肢装具の歴史と分類・名称・構造・特徴について学習することを目的とする。また、義肢装具の対象となる疾患・障がいと、処方・作製・適合判定までの流れを学び、義肢装具の基本的な目的と原理を理解する。解剖学、運動力学、材料工学への理解を深め、身体機能を代償する補助具としての装具の機能について学習する。また切断術・切断後の後療法の流れと断端管理法についても学習する。	

授 業 科 目 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 展開 科目	義肢装具実習	義肢装具学の講義をふまえ、義肢・装具の作製過程と適合過程、使用過程について、体験的学習を行うことを目的とする。実際に熱可塑性プラスチック材料を用い、機能障害に適応した装具のデザインを決定し、作製・適合判定・使用練習まで一連の作業を経験することで、製作技術・基礎技法の修得を目的とする。また、模擬義肢や装具を用いた体験的な学習を行うことにより、対象者の観点を学びながら運動学・運動力学に関する理解を深める。切断後の後療法と断端管理法についても実習する。	
	日常生活活動学	対象者の生活を、心身機能や能力・個人の背景・環境要因など医学的観点から分析し、適切な方法で自立を支援できるよう、日常生活活動の概念や評価の視点・具体的方法について学習する。作業療法において対応することの多い障がいが日常生活にどのように影響をおよぼすのか、評価法とその支援方法について学習する。また、身体機能の代償としての福祉用具・自助・等の種類や適応・使用方法・使用上の注意等を学習し、支援できるよう知識を身に付ける。	
	日常生活活動実習	日常生活活動学や関連科目で学んだ知識をもとに、日常生活動作の具体的な評価・援助技術の修得を目的とした実習を行う。人の運動・動作を観察し記録することを通して、正常な運動・動作について理解を深め、作業療法の対象となる主要な疾患とその障がいの日常生活に及ぼす影響について学習し、具体的な支援の方法を修得する。また、対象者が必要とする生活技能や社会活動を支援するための評価・介入・支援の方法について、総合的に学習する。	
	スポーツリハビリテーション	ここでは、スポーツ障害、スポーツ外傷の予防と治療のためのスポーツリハビリテーションの概要について学習する。また、スポーツ選手のスポーツ障害からの復帰や、スポーツ障害の予防などを考慮したりリハビリテーションについて学び、日常生活活動レベルを目標とするリハビリテーションとの関連について学習する。	
	作業学（木工・陶芸等）	作業療法の治療手段のひとつである木工・陶芸等について学習する。材料・道具の特性を理解し、製作を通して基本的技法の習得を目指す。各作業を分析することにより、基本的動作能力の知識を深める。また、木工・陶芸等の心理・情緒面を含めた治療効果や障害別対象者への導入方法、注意点・禁忌事項について考察する。最終的には、各技法の段階付け（難易度設定）について考えることにより、作業療法への応用力を身につける。	
	作業学（革細工・籐細工等）	作業療法の治療手段のひとつである革細工・籐細工等について学習する。材料・道具の特性を理解し、製作を通して基本的技法の習得を目指す。各作業を分析することにより、基本的動作能力の知識を深める。また、革細工・籐細工等の心理・情緒面を含めた治療効果や障害別対象者への導入方法、注意点・禁忌事項について考察する。最終的には、各技法の段階付け（難易度設定）について考えることにより、作業療法への応用力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 展 開 科 目	地域リハビリテーション	WHOは、地域リハビリテーションを「地域資源を用いて地域レベルで行うリハビリテーション活動で、障害者とその家族を含む地域社会全体が参加して行なわれる方法である」と定義している。我が国の地域リハビリテーションの歴史、理念、システム、課題、実践方法等を理解する。また医療機関・施設から地域へ、リハビリテーション継続に向けた種々の課題とその解決について考える。そして、在宅障害者の特徴や、訪問リハビリテーション、保健・医療・福祉、とりわけ介護等との関連・連携についても学んでいく。	
	生活環境学	障がい者の活動範囲を広め、積極的な社会参加を促すためには、人々を取り巻く生活環境を理解し改善していくことが重要である。ここでは、生活環境の変遷やクオリティ・オブ・ライフ、経済環境や行政・制度的環境、及び物理的環境について理解を深める。更に、生活する人に適したバリアフリー環境を実現するための住宅の構造や、住宅改修に関する基礎的な知識を身に付け、各種障害に合った、住みやすく、また、豊かな生活を送るための方法や工夫について学習する。	
	リハビリテーション関連機器	リハビリテーション関連機器の概要を理解し、作業療法士の役割と機器を治療に役立てる手法について学習することを目的とする。また障がいのある方の自立的な生活や就労を支援する機器である福祉用具について学習する。福祉用具の定義、福祉用具関連の法制度と供給システム、福祉用具の分類と使用目的とともに、作業療法士の役割について学習する。解剖学・運動力学の知識をもとに、対象者の障がいに適したリハビリテーション機器の作製方法を学習するとともに、新たな機器開発への視点を身につける。	
	地域福祉論	地域福祉の理念、内容、仕組、現状、方法を概説し、在宅福祉サービスの一元化、保健・福祉・医療の連携のあり方を教授する。またコミュニティワーク、コミュニティーケアやソーシャルサポートネットワークなどの概念についても理解する。今日の地域を単位としたフォーマル・インフォーマルな支援体制等の先進的な取り組みなど現状について理解する。とくに、民間非営利活動や、地域福祉推進の民間組織体である社会福祉協議会の役割や活動、課題等についても理解を深める。あわせて、地域の生活において重要なアドボケート機能についても学ぶ。	
	臨床評価実習	作業療法評価の過程について、臨床実習地の実習指導者の指導・監督の下でこれを実施し、評価に必要な知識・技術・態度の学習をする。そして、評価結果の解釈の仕方について、実習指導者の指導の下、理解を深める体験をする。また、その際の記録、報告の仕方について、レポート等への記載を体験することで学習する。臨床施設での実習の後、各自が体験してきた内容について、学内で発表・ディスカッションすることで、さらに理解を深める。	
	臨床実習	作業療法専門科目の学習で得た知識・技術態度を応用し、臨床実習地の実習指導者の指導・監督の下、評価から治療までの一連の課程を経験する。臨床場面での実践経験を通して、患者の障害像の理解、作業療法士としての役割についての理解を深め、医療従事者としての協調性のある態度について自己を見つめ直すきっかけとし、自己認識を高める。また、臨床施設で経験した一連の作業療法の課程を学内で発表・ディスカッションすることで、作業療法への理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 展開 科目	臨床実習	臨床実習 で顕在化した知識・技術・態度の克服を目標に、臨床実習地にて実習指導者の下、作業療法評価から治療までの一連の過程を経験する。また、一人の患者への作業療法治療のみならず、治療道具の管理や他職種との連携など、作業療法部門において必要な業務の体験をする。臨床施設での実習の後、経験内容を学内で発表・ディスカッションし、作業療法士としての知識・技術・態度への認識を深め、卒業業務への備えをする。	
	見学実習	実際の医療現場における臨床場面を見学し、社会人・専門職としての態度を養い、対象の障害の多様性を認識し、コミュニケーションを図る。現場での作業療法士の活動から作業療法業務を理解し、検査・測定を中心とした作業療法評価や治療場面を見学して、学内での講義、実習の意義・重要性を認識する。また、十分な知識、技術を習得していない時期に将来の職場、職業を見聞することは、自らの職業として適切か不適切かを直感的に感じることができ、学生自身の将来設計の一助とする。	
	基礎実習	基礎実習では、見学実習等で学んだことをふまえ、作業療法士がかかわる施設の状況、対象児・者、必要な知識や技術等について理解をすすめる。また、作業療法士としての基本的態度や役割、他職種との連携・協力等についても学ぶ。そして、臨床評価実習に向けて各自の課題・学習目標を設定する。基礎実習は、学内での学習および学外の実習施設での学習から構成される。	
	客観的臨床能力評価	本科目では、臨床評価実習、臨床実習、臨床実習、各々の科目における作業療法評価能力、治療手技能力の養成を目指しその到達度の評価を行う。各実習の前に、臨床で求められる評価能力、治療手技能力、その他臨床場面におけるコミュニケーション能力の最低基準について学習を行う。そして、筆記試験では評価困難とされる精神運動領域や情意領域の評価のために、客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination : OSCE) の方法を導入し、OSCEの内容について学習を行った上で評価を行う。	
	基礎ゼミ	基礎ゼミ では、これまでに学んできた作業療法及びその関連分野の学習を踏まえた上で、4年次に作成する卒業論文に向け、各自が興味を持つテーマについての学習を発展させ、理解・関心を深めていく。また、卒業研究のテーマを選択するために、各自の問題意識の明確化を進める。	
	基礎ゼミ	基礎ゼミ では、各自が興味を持つテーマを選択し、教員の指導の下に学習を行う。ゼミにおける発表・ディスカッションを体験して、発表・討議に習熟すると共に、基本的な研究の方法を学び、選択テーマについて基礎的な学習を行うことを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(医療健康学部作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 展 開 科 目	卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ では、各自が選択したテーマによる卒業論文をまとめるための学習を行う。各自が選択したテーマに関連する領域を、研究分野とする教員の指導を受け、出席者の報告とディスカッションを中心に、学習を進めていく。	
	卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ では、卒業研究ゼミ での学習を基礎として、卒業論文をまとめていくために、専任教員の指導の下に、論文の準備状況の報告と討議等を行う。	
	卒業論文	各学生に、卒業研究として、卒業論文を提出させる。学生は、学内外で学んできた、作業療法に関連する理念・知識・技術等を基礎として、各自が設定したテーマについて研究し、論文としてまとめることにより、4年間の学習の集大成とする。	
	総合学習	この科目では、作業療法を行うために必要な、知識、技術、理念等を着実に身に付け、現場で適切な対応ができるよう、これまでの学習内容の総合的なふりかえりを行う。また、作業療法士として必要な、基礎的知識、技術等が確実に修得されているかを確認し、まとめを行う。	